

睦言・参

—ムツミゴト—



DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止



怠惰や墮落からも妖怪は生まれる。
即ち、怠惰や墮落を愛するのは
妖怪を愛するのと同義なのだ。



一応手ぬぐいの
用意ぐらいは……



すごい雪だなあ……
外に行っちゃったけど
藍様は大丈夫だろうか



……寒い



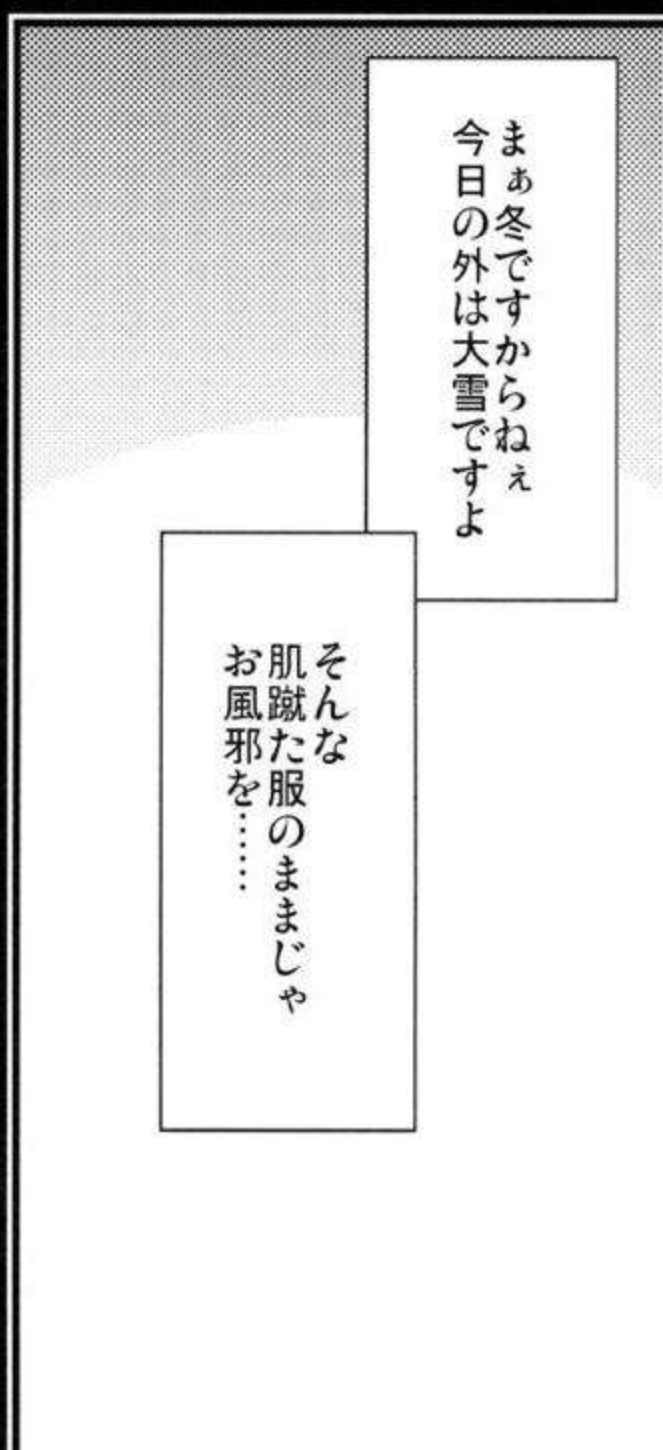
どうかしましたか？
紫様



あら
そうなの


それじゃあ
ちよっと来なさい

うわわっ？




まあ冬ですからねえ
今日の外は大雪ですよ

そんな
肌蹴た服のままじゃ
お風邪を……



あつという間に
布団に引き込まれ
逃げられないよう
力強く抱きしめられる

彼女の温もりが詰まった
狭い空間と
そこに染みこんだ
女性の甘い香りが
頭をくらくらさせていく



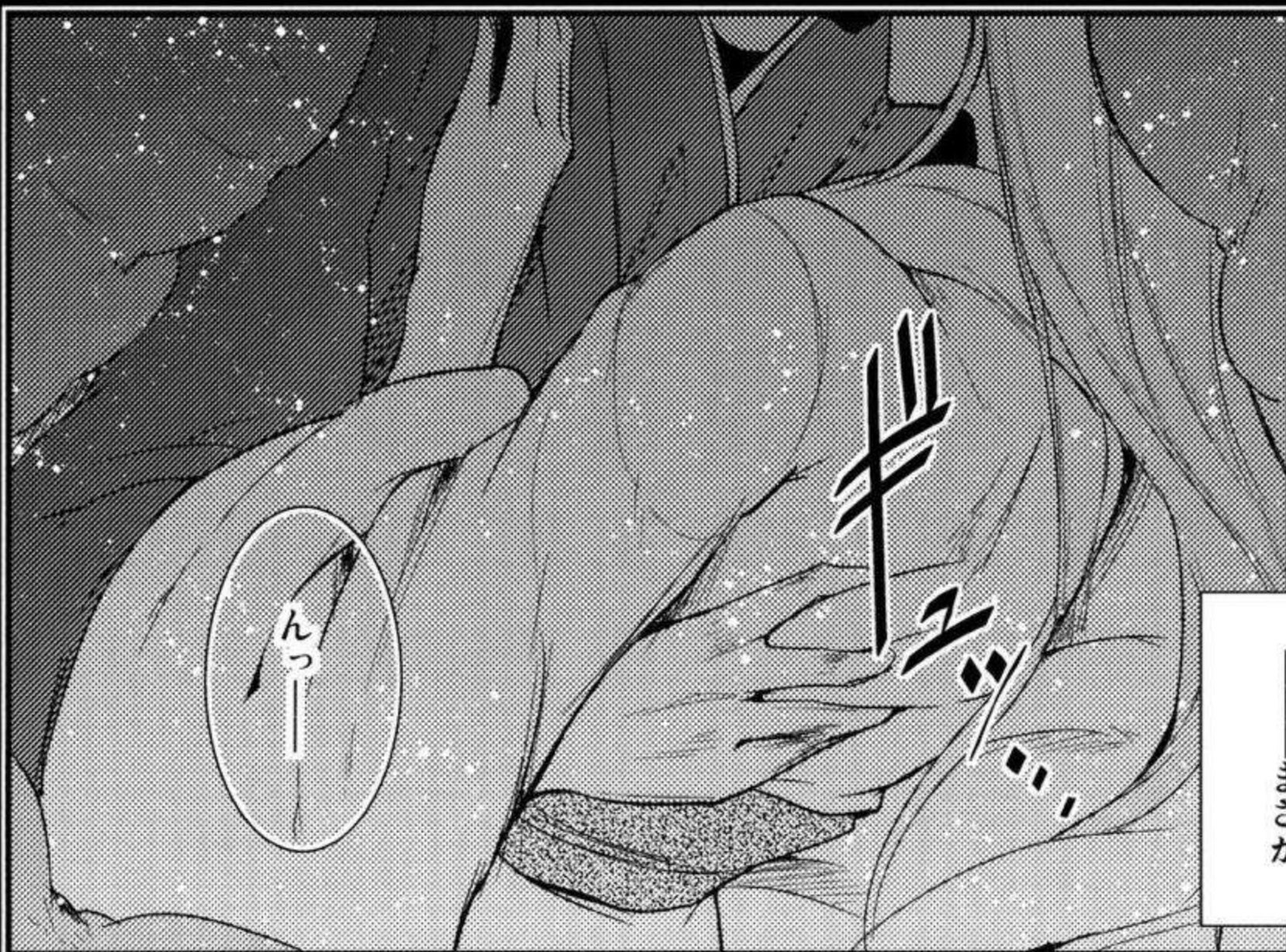
この音の感じじゃ
外に出れないぐらいの
大雪なんでしょう？

豊かで柔い胸を
さらに押し付けるように
彼女の手が
首の後ろに回る



することも
ないんだし——

どうせならたっぷり
愛しあいましょう？



んっ

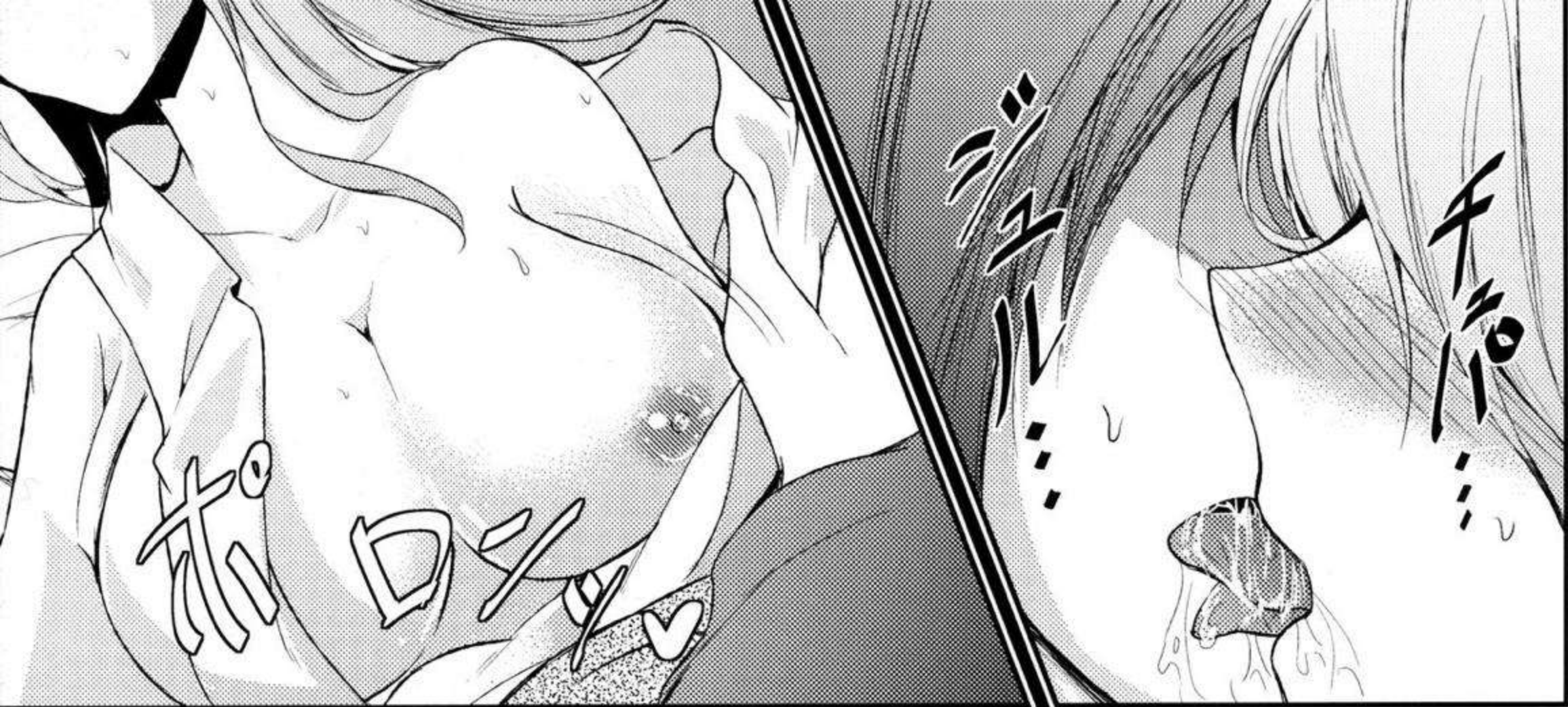
キエ

嫌？

……いいんですか？

——まどろか

怠惰な生活を
嫌う人間はいませんよ



舌で口腔内を蹂躪しながら
紫の襦袢に手をかけ
ゆっくり肌蹴させていく



布団の外から冷たい外気が
漏れてこないよう
ゆっくりと動きつつ――

顕になった
豊かな乳房を
好き放題堪能する



いやらしく
身体をくねらせる
彼女の皮膚を舌でなぞり

あっ

やっ

頬、首筋、鎖骨、胸と
舌を滑らせ
最後に乳首を
思うまま吸い上げる

キュッ

もう……

結局おっぱい
吸いたいただけ
なんだから……

キス

モミ

キッパ

ほら……
大好きなおっぱいで
シてあげるから
交代しましょ？

紫が顔に跨るように
上へ覆いかぶさり
いわゆるシックスナインの
体勢になる

紫の下着が眼前にくると
愚息が柔らかい感触に
包み込まれた

あらあら
随分元気なこと

そんなに
気持ちいい？

グイッ

チュッ♡

チュプ♡

グググ

グググ♡

ググ♡

お返しといわんばかりに
秘所に這わした
舌を動かす度

びくびくと
可愛らしく体が跳ね
小さな嬌声が
聞こえてくる

それに応えるよう
愚息へ柔らかい刺激が
襲い掛かり

ほんふ……♡
ほんとに元気ね

すっごい
ドロドロ……♡

吐き出された欲望が
紫の胸や顔を
白く染めあげていった



紫の身体を
後ろから抱きしめる
ゆっくりと挿入する

布団を被って
繋がっているのもあり
冬の朝だというのに
お互いの身体は
じっとり汗ばんでいた



健気に快楽を
我慢する彼女を
存分に可愛がる



豊かな双丘を
後ろから
好き勝手に弄び



物足りなさそうな
彼女の唇を塞ぎ
あえてじっくり
ゆっくりねっとり
時間をかけて腰を動かす

どうせ今日は
何もできないのだ

ならば存分に
恋人を可愛がり
楽しむとしよう



不意に膣内が
愚息を締め付け
たまらず射精してしまふ

体内に流し込まれる
精液に呼応するよう
紫も絶頂を迎え
身体を震えさせる



んう……

ね……
まだ足りないの……

もっと……
愛して……？

やはり藍様の事も
心配なので

ほどほどで切り上げ
居間で待機する
ことにする

あのまま夜まで
楽しんでいたい
気もしたが――

外の天候は
未だ収まる気配を
見せない――

ズッ

モッ

ん？

ガタ
ガタ
グオオオオオオ……



橙 どうした？



まあ
そうだろうねえ

こんな天気じゃ
お外に出ることも
できませんしー



……すること
ないですー



……橙？

藍様は無理矢理
お仕事いっちゃったけど
大丈夫だろうかー

……えっちな
においがします

カキカキ

めろっ

……
紫様ばかり
ずるいです！

おととと

言うが早い
か
橙の手は着物に伸び
たどたどしい手つきで
愚息を露出させる

カキカキ

カキカキ

しばらく
紅潮した顔で見つめた後
おそろおそろ
愚息に口をつけ

口いっぱい
に
愚息を頬張りながら
強くむしゃぶりついてくる

上目遣いでこちらの様子を不安そうに伺ってくるのは初手で可愛らしいなあと思うし



小さな口と舌で一生懸命奉仕してくれる姿は背徳感があつてとても興奮する



射精の瞬間橙の口から愚息を引き抜き顔に容赦なく精液をかけていく



汚された顔を
見ると
嗜虐心に火がついて



ああ
かわいいなあ

んえー……

ドロドロ……

オオ



もっと可愛がって
あげたくなる

ほら橙

足広げて

……はい



んあ……



んっ……

小柄な橙を
抱きかかえるようにして
幼い割れ目に
愚息をあてがい挿入する

押し分けられた
狭い腔内は
異物を受け入れるように
愚息へ絡みついてくる

安心させるように
軽いキスを落とすと
尻尾が嬉しそうに
揺れ動く

身体を預けてくる
橙の腰を掴み
上下に揺り動かす

快楽を味わうだけの
乱暴な動きだが
耳元で聞こえる
橙の吐息は色を増し

恍惚の表情が
手に取るように
分かる



回された細い腕が
背中を強く
締め付けてくると

橙の身体が
ビクンと大きく震える



橙の絶頂を
押さえつけるように
身体を強く抱きしめ返し

小さな最奥を満たすよう
溢れんばかりの
精液を注ぎこんだ





……雪
止まないですね



その……

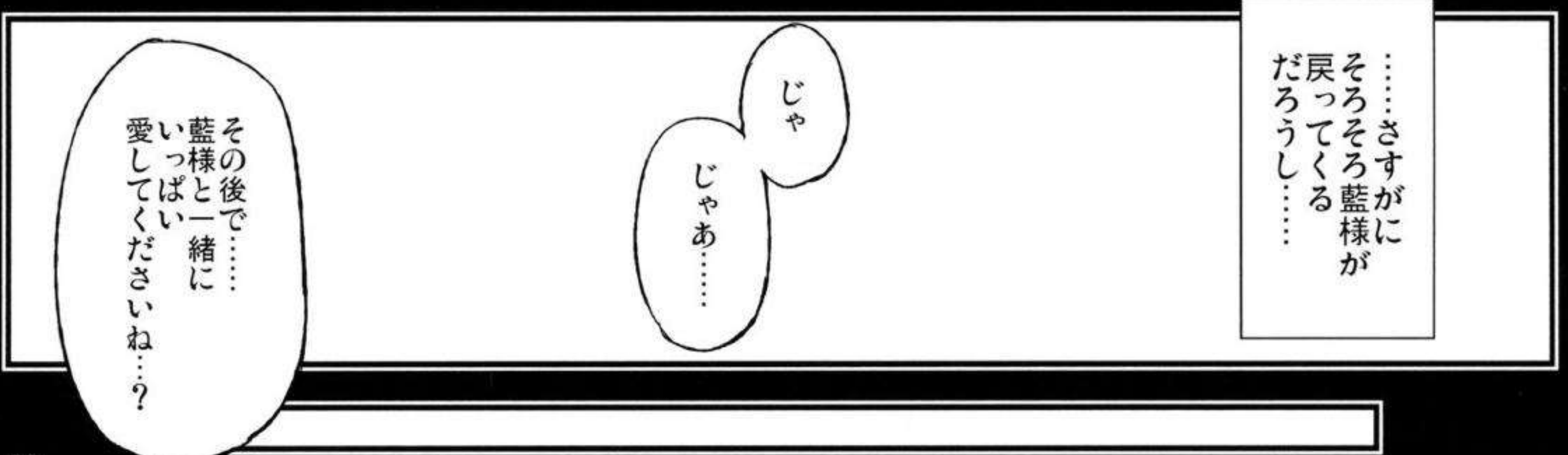
……もう一回は

ダメ……ですか？



あの……

？



……さすがに
そろそろ藍様が
戻ってくる
だろうし……

じゃ

じゃあ……

その後で……
藍様と一緒に
いっぱい
愛してくださいね……？



うー寒っ

ジョオオオオ



今年一番の
大雪だなこりゃ

どうしてこう
忙しい時に限って
荒れるかね
天気って奴は



おかえりなさい
お疲れ様です

ただいまーっと



どうでしたか？
仕事の方は

いやー
駄目だ駄目だ

視界が真っ白で
どうにもならんよ



雪が弱まるまで
動けんなーこりゃ

ワシ

ご苦労様です
お身体
冷やさないよう……

……ん
そうだなー

それじゃあ……





いきなり
とても力強く
唇を合わせられ



そのまま
倒れこむ事も許されず
あつという間に
部屋の隅まで追いやられ

口内に侵入してきた
彼女の舌が
逃がさんとばかりに
自分の舌へと絡みつく



服の上から
愚息を弄んでいた
彼女の指が
服にかかる——



『とても冷えきった』
彼女の指が
熱を持ち始めた患息を
優しく包み込み

瞬時に全身へと
刺さるような
冷たさが走り抜ける



情けない声
あげちゃってー



んー？
どうしたー？

どうせまた私が
冷たい思いをしてる間
お楽しみだったんだろう？

これぐらいの
お仕置きは
我慢しろ

.....
ごめんなさい

ほら
いく時は
一緒に.....な？

下着を脱がせ
尻を突き出すような
格好を取らせて
愚息を秘所へと擦りつける

藍の秘所は
既に濡れ始めており
挿入を待ち構えていた

腕を引っ張り
あてがった愚息を
一気に膣奥まで挿入する

んあ…
あ…

キュン♡

幾分か冷えたおかげか
膣内の暖かさが
蕩けるような快感を
味わわせてくれる

んあ…

腰を打ち付けるように
抽送を繰り返すと
可愛い声を聞かせてくれた

キュン♡

んあ…



片足を持ち上げ
身体をさらに
密着させて
藍の口内を味わう

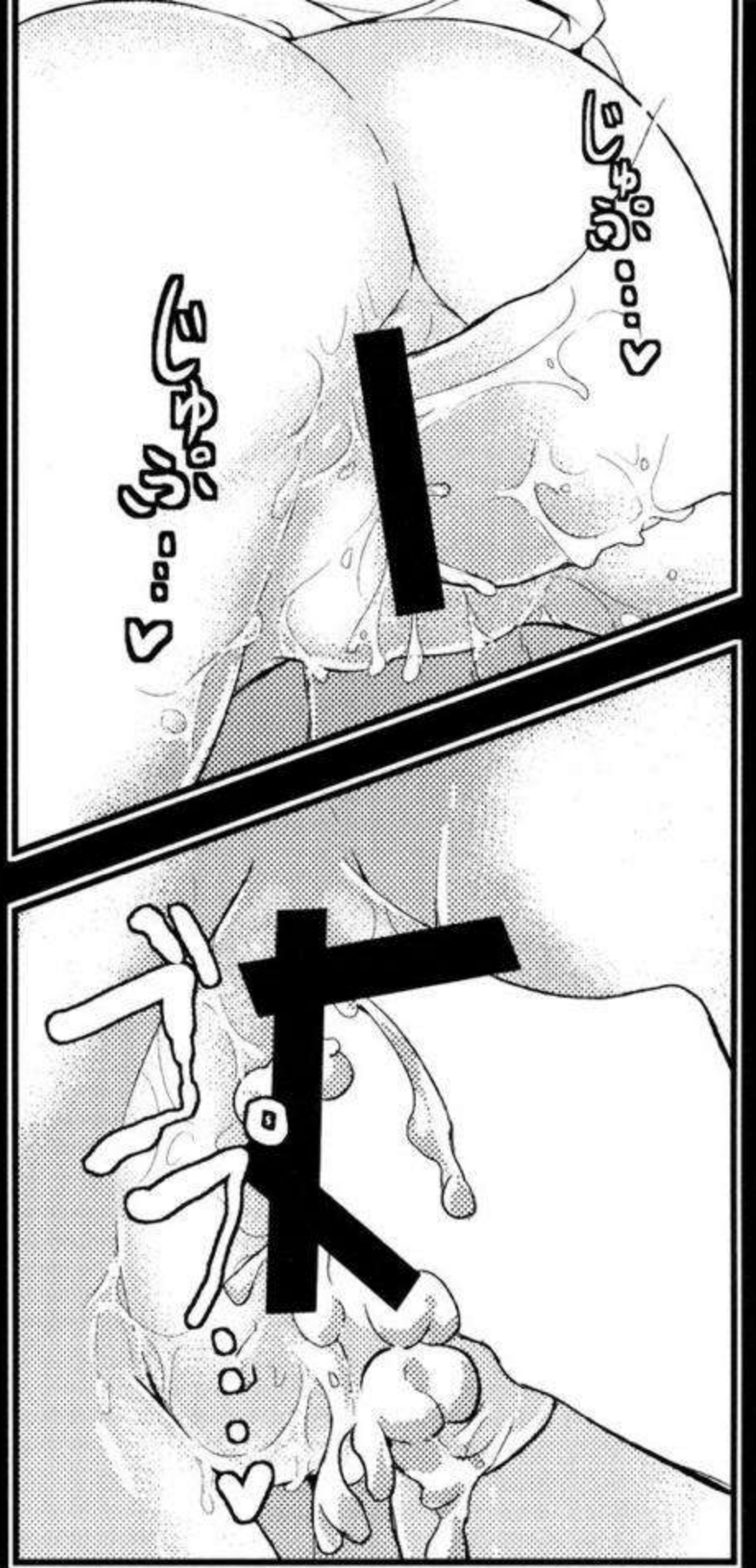
積極的に
舌を絡ませてきたので
こちらも乱暴気味に
腰を打ち付けてやる



抽送する度に膣内が震え
抱きしめた藍の身体が
ビクンと大きく跳ねる

藍の絶頂に合わせて
愚息を締め付けてくる膣内に
大量の欲望を注ぎこむ

お互いが絶頂を迎えると
藍の象徴である尻尾が
身体と一緒に
力なくへたるのが見える



睦言 -ムツミゴト- 参



2015年12月30日 初版発行
コミックマーケット89

発行

みどりねこ

制作

みどり

Webサイト

<http://www.pixiv.net/member.php?id=76139>

印刷

株式会社 栄光

Mail

midori0014@gmail.com

謝辞

ZUN(上海アリス幻楽団)





Long, Long Ago.
There was a green cat.